

各種疾患・病態におけるうつ病・気分障害の合併の実情 身体疾患とうつ病

自殺企図後の抑うつ

福岡大学医学部精神医学教室

衛藤 暢明
川寄 弘詔

① はじめに

自殺とうつ病の関係は、古くからよく取り上げられてきた。最近では、うつ病にとどまらず多くの精神疾患で自殺が生じることが知られるようになってきた。本稿では、自殺企図後の抑うつを中心にとりあげる。

② 自殺企図とうつ病について

うつ病は、その症状として自殺念慮、希死念慮を含むこともあり、もともと自殺と関連づけられやすい精神疾患といえる。1998年に急増したわが国の自殺者は、1999年以降、SSRIやSNRIを含む新規抗うつ薬の開発・使用にも関わらず、実際にわが国の自殺者が減少に転じたのは2010年以降のことであった。自殺が単に抗うつ薬の使用のみで予防できるものではないことを意味しており、背景には抗うつ薬の開発に伴う限界や診断をめぐる課題も指摘されている¹⁾。

一方、自ら死ぬことを意図して行動した場合を自殺企図とよぶ。自殺および自殺企図と気分障害の関係について関係をまとめたものを図に示す²⁾。

③ 抑うつ症状を伴う精神疾患と自殺

自殺企図後に鑑別すべき主な精神疾患は多くあるが、ここでは抑うつ症状を伴う精神疾患を取り上げる。自殺企図者に関するわが国の調査のうち、3次救急(救命救急センター)に搬送された重症自殺未遂者に関する調査では、気分障害が29～37%を占め、他の精神疾患よりも多くの割合を示している³⁻⁵⁾。気分障害の中で、双極性障害における自殺の生涯発症危険は一般人口の15倍と推定される。また、大うつ病性障害では、回復期の自殺の危険に注意すべきといわれることがあるが、実際には抑うつ症状の全期間で自殺関連行動の可能性がある⁶⁾。気分障害にとどまらず、自殺未遂歴の既往が、将来の自殺既遂を予測する最大の要因になる。統合失調症・統合失調感情障害における自殺の生涯発症危険率は4～5%とされ、抑うつ症状が存在すれば自殺の危険は高くなる。

抑うつを呈することのある精神疾患の一つである適応障害については、自殺の発症危険度が明らかになっていない。しかし、わが国において、救命救急センターに入院となった重症自殺未遂者全体の割合は18～33%を占め、諸外国よりも高い割合である可能性がある。これは、抑うつ症状の期間もしくは重症度の点でうつ病(大うつ病性障